

# 信濃毎日新聞（平成 23 年 5 月 31 日付） 掲載

平成 23 年 5 月 31 日付 信濃毎日新聞にアイゼットに関するの記事が掲載されましたのでご案内致します。

## 蛍光灯 反射板の性能アップ

### ビジネス 交差点

照明器具開発製造のアイゼット（上伊那郡南箕輪村）が、東日本大震災以降、節電を進める企業からの受注を相次いで獲得している。同社製品は反射板の性能を高め、蛍光灯の本数を減らしても照度を保てるのが特徴。7月発動の電力使用制限令で、昨年夏と比べて電力使用量の15%削減が求められる東京電力と東北電力

管内の企業などから引き合いが急増している。アイゼットによると、蛍光灯の上部に取り付ける反射板は一般的に白色塗装で反射率は約60%。同社はチタンなどを表面に加工し、反射率を95%に高めたアルミ材を使用している。設置

場所の天井の高さに合わせて、本社工場で反射板を折り曲げて加工している。反射板は「リフラッシュ」の名称で1995年に発売。2007年からは蛍光灯などと組み合わせた「リライト」として販売している。リライトは、工場など

で使う水銀灯や蛍光灯の半分の消費電力で同程度の照度を確保。節電対策で注目の発光ダイオード（LED）照明と比べて、導入費用が3分の1以下に抑えられるとアピールする。震災後、問い合わせ件数は従来の5倍ほどに増え、

都内の大手建機メーカーの本社ビルに約3千台の納入が決定。6月にはレンタルビテオの全国チェーンの一部店舗にも試験的に設置する。アイゼットの12年3月期の売上高は、前期より8億円ほど多い30億円を見込

む。

### アイゼット （南箕輪村）

## 節電対策引き合い急増

林邦男社長は「（電力需要がピークを迎える）夏までに対応してほしいという要望が多い。スーパーなど商業施設は消費電力の3割程度を照明が占めるので、それを半分に抑えられれば15%削減は達成できる」とする。今後、LEDと反射板を組み合わせ、さらに消費電力を抑えられる商品開発も進める方針だ。

アイゼットが受注を伸ばしている「リライト」（左）。従来の蛍光灯（右）と同じ照度で、消費電力を約45%削減できるという

